



創作童話

『木の精キロリのひみつのしいのり』

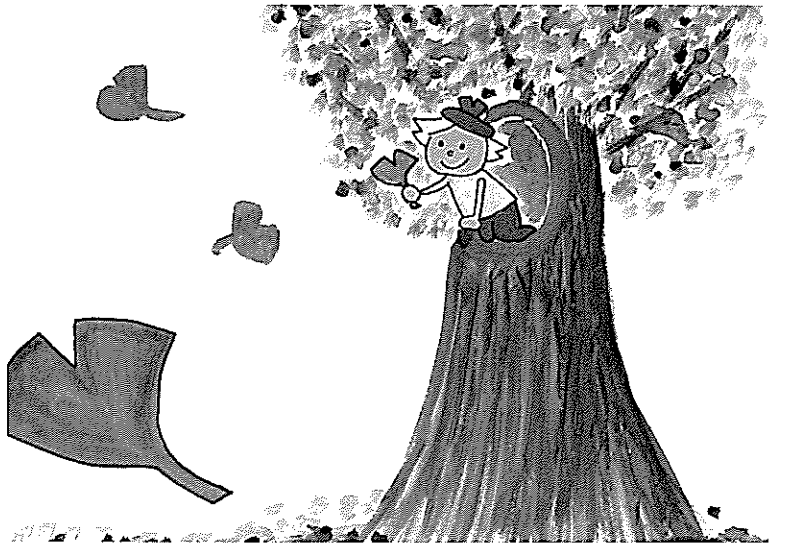
①

特定非営利活動法人 センスオブアース・市民による自然共生パンゲア

address : 〒174-0063 東京都板橋区前野町4-8-6

tel & fax : 03-3960-6052 e-mail : info@npo-soe.jp

この紙芝居は、東京ガス環境おうえん基金の助成金を受けて作成しました。



②

キロリは イチヨウの 木の精です。

キロリは 自分の木が 自慢です。

だって、この木は どんな木よりも

古くから この地球（ほし）にあったから。

ずーっと、ずーっと 大昔、

まだ恐竜が 住んでいた頃から、

この木は ここにありました。

葉っぱの 二つに割れたような筋は、

大むかしの木にしかありません。

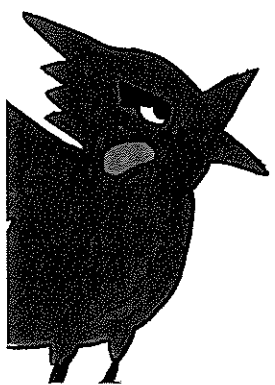
キロリは オジイから イチヨウの木の

秘密の祈りを 聞きました。

その祈りは 一度しか使えない

秘密の祈りです。

さて、キロリには、困ったことがあります。



3

それは、カラスの カースケと
ヒヨドリの フースケが 自分の木の上で
ケンカをしていることです。

(カースケ) 「カーカー！ お前たちは
頭を ボサボサにしている だらしない！
しかも食いしん坊ときた！ こんなヒヨドリに、
この立派な木は 渡さないぞ！ カー！！」
(フースケ) 「ギーギー！ カースケ達は
いつも 大勢で鳴きわめいて、
うるさいんだ！ そんな行儀の悪い
カラスに この木を渡すものか！ ギー！！」

この二匹の 終わらないケンカを
キロリは イチヨウのうるの中ら
聞いていました。



④

すると、向こうから、

小さな 人間の男の子が 来るのが見えました。

「キロリー、遊ぼう！」

と 男の子は言いました。

(キロリ) 「モックンだ！」

モックンは、キロリをみる事ができる、

ただ一人の人間です。

他の人間には キロリは見えません。

キロリは急いで、木から下りて、

モックンの頭に 飛び乗りました。



5

モックンと キロリが ブランコをこぎ、

空まで届くよう 頑張っていると、

目の前の イチヨウの木から

何かが 落ちてきました。

(キロリ) 「なんだ、なんだ？」

(モックン) 「行ってみよう！」

キロリと モックンが 行ってみると、

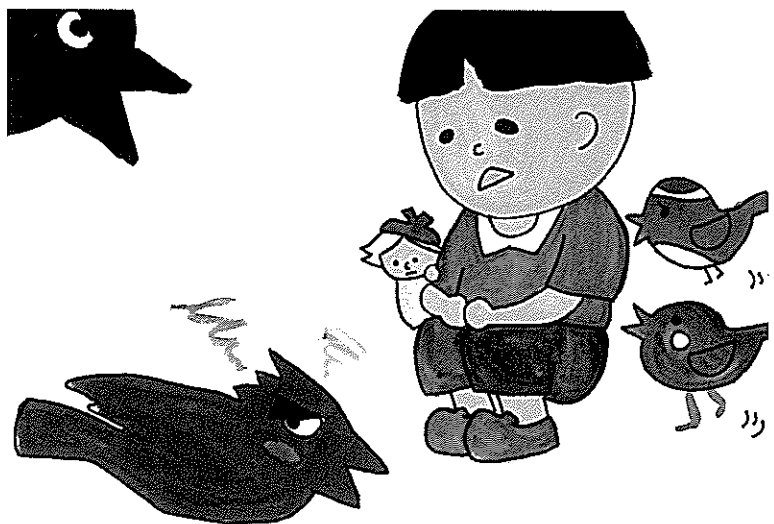
つんとすました ツグミの グっちゃんど、

オレンジ足の ムクドリが マー坊が

駆け寄ってきました。

落ちてきたのは、

ヒヨドリの フースケでは ありませんか。



⑥

(モックン) 「大丈夫? ケガしなかった?」

キロリも、モックンもグっちゃんも

マー坊も フースケを覗き込みました。

(フースケ) 「痛い、痛い! カースケが

悪いんだ! 乱暴者はどこかへ行け!

フースケは イチヨウの木にとまる

カースケに 向けて、苦しそうに 言いました。

(カースケ) 「ボサボサフースケ!

お前の負けだ! お前のように

何の木の实でも 食べてしまう

食いしん坊に、このイチヨウの木は

やらない! この木は 俺たちの木だ!」

そう言って、カースケや カラスたちは

イチヨウの木の周りを 勝ち誇ったように

飛び始めました。



⑦

フースケは 動くことが できません。

キロリと モックンは、

ハンカチを 傷口にあててあげました。

グっちゃん と マー坊は せっせと

水を口に含んで フースケに 届けました。

みんなの手当てのおかげで、

フースケは 元気になってきました。



⑧

イチヨウの木の周りはたくさんの
カラスでいっぱいです。

おまけに、たくさんのカラスが

ガーガーと鳴くので、とてもうるさいです。

キロリは、

「もう少し静かにならないかなあ。」

とため息をつきました。



9

時は経ち、秋になりました。

イチヨウの木は、何百・何千という実をつけ、地面に 落としました。

すると、カースケ達カラスは、そばにより、食べようと思いました。

しかし、

(カースケ)「なんだ、このにおい！

こんなくさいもの、食べられるか!!」

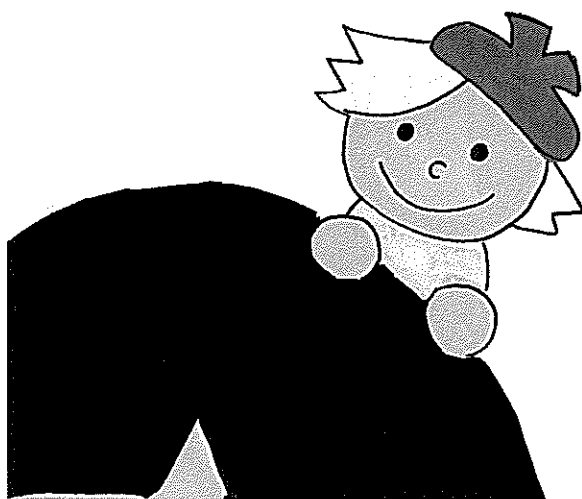
そう言って、カースケ達は 街の方へ飛んで行ってしまいました。

そこに フースケ達が やってきて、イチヨウの実を つついて 食べたり 落としたりしています。

木の周りは イチヨウの実で いっぱいです。

モックンと その友だちが イチヨウの実を 拾いにやってきました。

中の実が おいしいことを 知っているからです。



10

キロリは みんなが イチヨウの実を
取りに来てくれるのが とても嬉しくて、
自慢でした。

「お家に帰って ママに 焼いてもらうよ。」
モックンは言いました。

イチヨウの実のおかげで、カースケ達は
来なくなり、ヒヨドリ、フースケ達の
家になりました。
キロリは これで少し静かになったかなと、
ホッとしました。



11

秋も深まった頃、毎日雨が降り続きました。
キロリは イチヨウの木が どんどん年を
とって、弱っていくのが 心配でした。
うるの中に座って、雨の強い音を
聞いていると、誰かが呼んでいる声がします。

(モックン)「キロリー、元気？
雨で遊べなくて つまらないねー」
モックンでした。

(キロリ)「元気だよ。でも イチヨウの
木の 元気がないんだ。」

(モックン)「そうなの！？ どうしたら、
元気になるのかなあ。」

(キロリ)「昔 オジイが 言っていたんだけど、
落ちたイチヨウの葉を たくさん集めて、
生き物の形にすると、地面から 命の力が
湧いてくるんだって。その力で、
イチヨウを 元気出来るかもしれない！」



12

次の日、雨が上がると、モックンは友達を連れて、イチヨウの木の下にやってきました。

(モックン)「皆で、イチヨウの葉で生き物をつくらうー!」

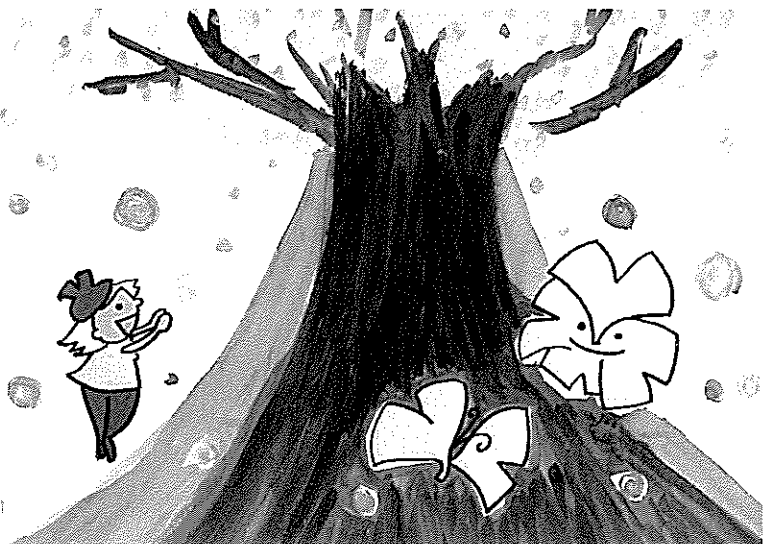
皆はせっせと黄色いイチヨウの葉を拾っていると、ガヤガヤ空から降りてきた者がいます。カースケ達でした。口にイチヨウの葉をくわえては、子ども達の所に葉を運んでいきます。すると、トヨドリのスースケ達も真似をして、葉を運んでいきます。ツグミのグッチャんやムクドリのマー坊もやってきました、葉を運んでいきます。

【作業の指導へ】※下記参照

【指導者用の言葉の例】
イチヨウの木を元気にするために、みなさんもイチヨウの葉で、いろいろないきものを作ってみませんか。
(子ども：はい)
では、イチヨウの葉で画用紙に好きな生き物を考えて貼ってみましょう。

【創作活動(20分程)】
では、みなさんのつくった生き物をイチヨウの木に向かってみせてください。
そして何の生き物が教えてあげてください。

【発表活動】
(あつという間に、たくさんのイチヨウの葉が集まり、次々に地面に生き物たちが出来上がっていきます。)



13

「ちょうちよ、花、トンボ、クワガタ、ライオン〔実際に作ったものにあわせて〕、など、すごいな こんなにたくさん!!」キロリは喜びました。

みんなのおかげで、イチヨウの木がみるみる 元気になっていきます。

その様子を見て、キロリが 叫びました。

(キロリ)「木のいのち、木のいのち、おおきくなあれ!! ドドングードーン」

キロリは オジイから聞いていた、一度しか使えない 秘密の祈りを使いました。すると、年おいたイチヨウの木が、ブルーン、ブルーン、ブルーン……!と体中をふるわせ、背伸びをしたかと思うと、全身で 体を広げて みるみる立派な イチヨウの木になりました。



14

(モックン) 「わー!!! 世界一立派な

イチヨウの木だー!!!」

みんなは大喜びです。

カースケも フースケも、グっちゃんも

マー坊も、モックンも キロリも

みんなが 大きな拍手をしました。

さて、世界一大きな イチヨウの木は
一体 誰のすみかになったのでしょうか。

あまりに大きな木なので、カースケ、
フースケ、グっちゃん、マー坊、

みんなに住んでも まだまだ大丈夫!

キロリは 仲良くなった 鳥たちを見て
モックンと 微笑みました。

イチヨウは みんなが作った生き物と、

秘密の祈りのおかげで、今まで

長く生きてきたのかもしれないね。